

総合防除（トマト、イチゴ、ナシ）による 環境にやさしい農業の推進

県西農林事務所経営・普及部門

管内では主要作物のうちトマト、イチゴ、ナシについて、病害虫の発生状況を調査し、農家へ迅速に情報提供し、的確な防除につなげています。また、トマトでは防虫ネットの展張、イチゴでは天敵を利用した生物農薬の利用、ナシでは落葉処理等、農薬に頼らない総合防除に取り組んでいます。

SNS を利用した迅速な コナジラミ発生情報の提供

筑西市・桜川市は抑制トマトの産地ですが、近年黄化葉巻病の発生が問題となっています。そのため、普及センターでは病気を媒介するコナジラミの現地での発生状況を10日毎に調査し、生産者にSNSなどを通じて迅速に情報提供することで、効果的な防除の支援を行っています。

また、防虫ネット及びUVカットフィルム展張による侵入防止、黄色粘着資材による捕殺、耐病性品種の選定などに取り組んだ結果、本年は黄化葉巻病の発生農家の割合が10%まで減少しています。

現地での病害の発生情報もリアルタイムで共有

調査結果

調査結果は SNS (LINE) で情報提供

SNS を使った情報提供の流れ



天敵を利用したイチゴ栽培

天敵を利用したハダニの防除

筑西市・桜川市はイチゴの産地ですが、近年ハダニ類の防除が問題となっています。

化学合成農薬では防除効果が思うように上がらなくなってきたために、天敵農薬を活用したハダニの防除の取り組みが平成26年から集中して行われています。

生産者の意識も化学農薬一辺倒だったハダニの防除から、天敵農薬を活用していこうと、いちご部会50名のうち36名が天敵農薬を利用しています。



黒星病菌子のう胞子トラップ

落葉処理によるナシ黒星病の発生軽減

近年、ナシの黒星病の発生が増加傾向にあります。そのため、普及センターでは前年の落葉から飛散する黒星病菌子のう胞子飛散状況のトラップ調査を春季に行い、結果を生産者に迅速に情報提供し、適期防除を指導しています。その結果、春の重要防除期に適期防除が行われ、休眠期の落葉処理と合わせた総合的な防除によって、黒星病の発生が軽減されています。